

## 授業のウェブページ

- 「講義ノート」は学内教員のみだそうです。
- <https://lunar-origin.github.io/GPU-psycho/>



1



2

# #02 ヒトはそれぞれの 世界を生きている

心理学@岐阜薬科大学2021

3

## メニュー

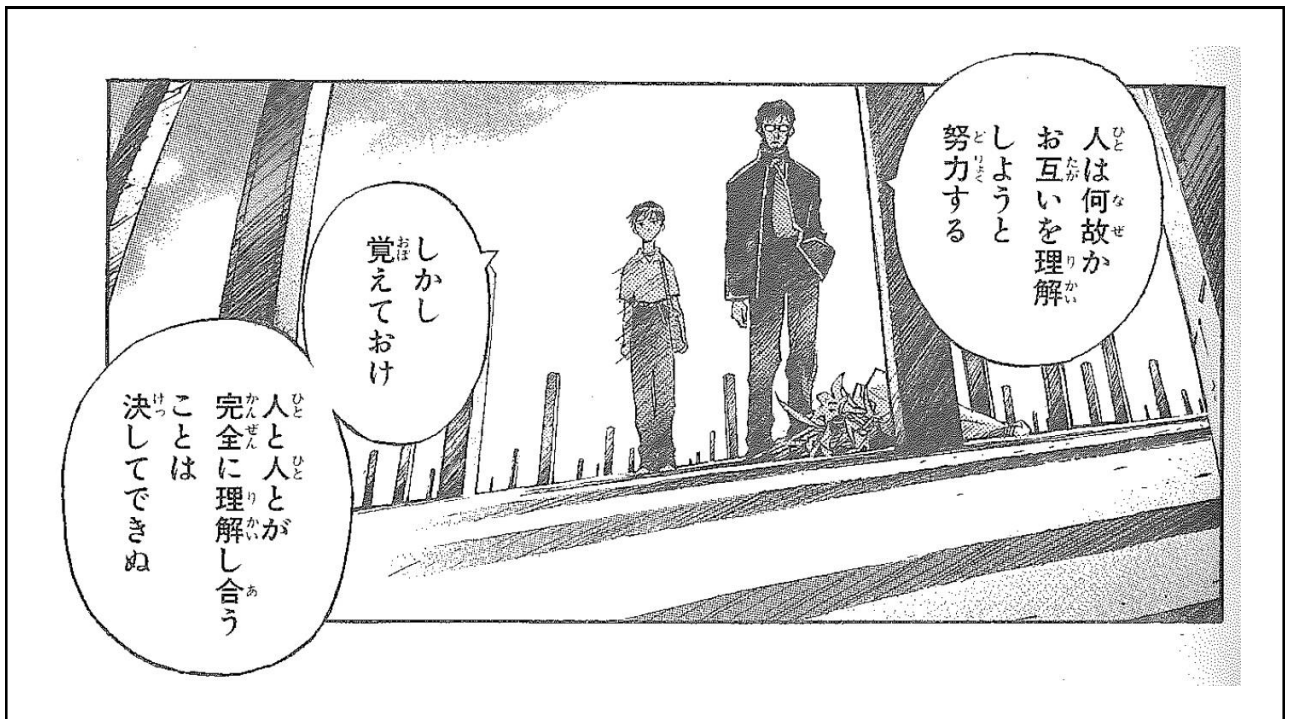
- 海外の[実験](#)を1つ
- 交通安全の心理学
- ないのにある

4

## “ある”のに見えていない

- 課題に集中していないほどアヒルちゃんに気づきやすい
- 非注意による盲目状態 (inattention blindness)
  - 同じものを見ていても、「注意」が向いていなければ見ていないのと一緒に
  - 同じ時刻、同じ場所にいながら、「別の世界」を見ている
- 例：友人との旅行の思い出、授業の理解

5



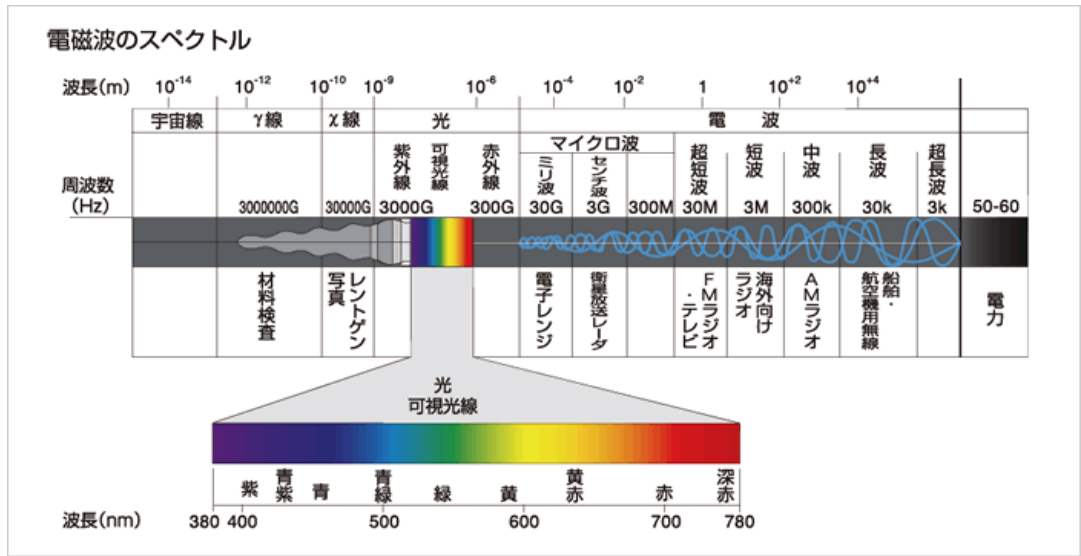
6

# 環世界（フォン・ユクスキュル）

- 私たちが生きている世界は，客観的な環境ではなく，主体に特有なものである
  - 異なる種は「別世界」を生きている
- 例：イヌは視覚ではヒトに劣るが，優れた聴覚と嗅覚がある
- 例：マダニは視覚と聴覚がないが，触覚，特に嗅覚と温度感知が優れている
- 個体でも成長・発達によって認識世界が変わる

7

# 可視光

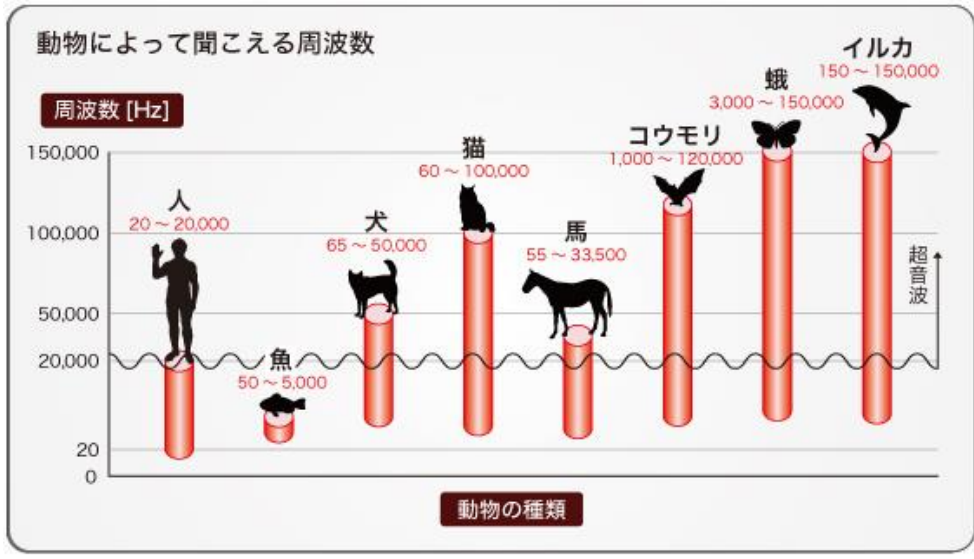


8



9

可聴域



10

## 交通：他者同士の交流の日常的な場

- 交通ルールは、他者同士の「共通世界」の役割を果たす。
- 交通の安全・危険は、注意の性質やその限界が関わっている。
- 交通には、広範な注意が必要。
  - 自分の注意
  - 「他者の注意」への注意

11

## バイクは事故しやすい

- 平成28年死亡者数（平成29年版交通安全白書, 内閣府）
  - 自動車事故：1338名 死亡率0.32%
  - 二輪車事故：684名 死亡率1.48%
    - 無茶な追い越し, 前方不注意, バイクを煽る車の増加
- 右折車は対向車よりもバイクを相対的に予期しにくい
  - 「アヒルちゃん」のように予想外のものを見落とす傾向
  - ドライバは「車の形状」がよく見える心理状態になっている

12

## 飲酒

- 「ゴリラ」により気づきにくくなる
  - 予期しない対象を察知する能力を低下させた？
  - 課題そのものの遂行能力を低下させた？
- 危険察知，操作に遅れが生じる
  - お酒の強い・弱い個人差は関係ない
- 失敗を意識する能力の低下
  - 脳内の危険反応が弱まる
  - 車間距離が短くなる



13

## スマホ運転（＝脇見運転）



- 様々な鈍化は飲酒に匹敵
  - ただ，車間距離は飲酒群・正常群よりもとる（あくまでも実験では）
- 合法である“ハンズフリー”は？
  - 手持ちと変わらない注意力の低下を引き起こす
  - マルチタスクの状態となり，それぞれの作業の質が落ちる
    - 運転操作
    - 音声の聞き取り
    - 意味内容の理解
    - 話す

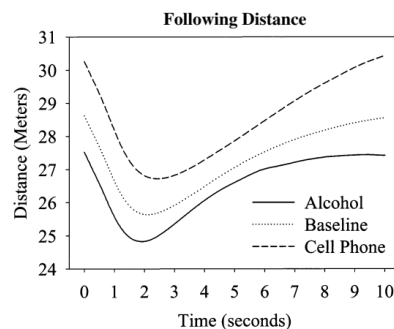


Figure 5. The following distance profile.

14

## 同乗者と話すのは？

- 運転能力への影響はほぼゼロ
- 電話よりも聞き取りやすい
- 同乗者の注意力も運転の助けになる
- 同乗者は運転者の状況を理解できる
  - 運転が難しい場所では口出ししない

15

## “ある”のに“ない”を再確認してみよう

- 友達とテキストに会話してください。
- その際、スマホで会話を録音してください。
- じゃあ、スタート
- 録音した会話を再生してみてください。どう？

16



“ない”のに“ある”を体験してみよう



17

## 今日のまとめ

- 私たちは、主観的な世界でしか生きられない。
  - 碇ゲンドウは正しい。。。。
- 私たちは、気づき屋でもあり、見落とし屋でもある。
  - 注意は諸刃の剣
- 注意の観点からすれば、飲酒運転とスマホ運転（ながらスマホ）は自殺行為に等しい。

18

# 飲酒の影響に関する補足1

- アルコール摂取により，ゴリラの検出率が低くなる (Seema et al., 2006)
  - 被験者は何を飲んだかを教示されるが，ウソの条件もある
    - 例：Told alcohol & Got tonic = 「アルコールを飲んでもらいました」と教示されたが，実際に飲んだのはソフトドリンク

Table 1. Percentage of subjects who noticed the gorilla by condition

|              | Got alcohol (%) | Got tonic (%) |
|--------------|-----------------|---------------|
| Told alcohol | 18              | 42            |
| Told tonic   | 18              | 50            |

19

# 飲酒の影響に関する補足2

- ベースラインとの比較 (Strayer et al., 2005)
    - 飲酒群：ブレーキを強く踏む（急ブレーキになりやすい）
    - 通話群：ブレーキの反応に遅れがある
- Fig 3
- 飲酒群：速度がやや下回る
  - 通話群：速度の回復が遅い
- Fig 4
- 飲酒群：車間距離が短くなる
  - 通話群：車間距離が長くなる
- Fig 5



Figure 1. A participant talking on a cell phone while driving in the GE-BIM driving simulator.

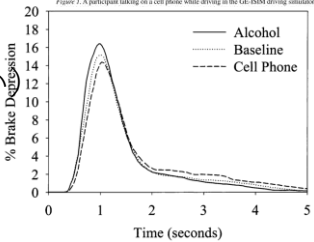


Figure 3. The braking profile.

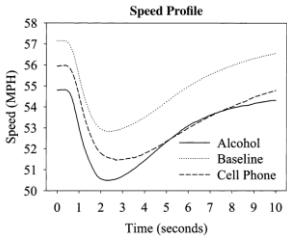


Figure 4. The speed profile.

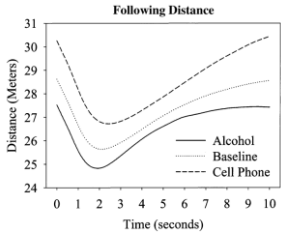


Figure 5. The following distance profile.

20